フォーラムの参加について

STEP1 参加の申込み　受付開始　2017年 10月 1日

専用用紙
下記「参加申込票」に記入の上、事務局までFAX送信または郵送してください。

ホームページ
子どもとメディアホームページ
http://komedia.main.jp
フォーラムページ内の「参加お申込みフォーム」からお申し込みください。

STEP2 参加費のお支払い

申込受付確認のメールもしくはFAXが届きましたら
お近くの金融機関より参加費をお振り込みください。

銀行振込　福岡銀行　けやき通り支店　普通 395311
特定非営利活動法人　子どもとメディア
代表理事　清川輝基
※恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

STEP3 入金確認後、参加受付票をお送りします

入金確認後、事務局より「**参加受付票**」をお送りいたします。
（1月上旬発送予定）

当日は「参加受付票」が必要になります。

STEP4 フォーラム当日

受付に「参加受付票」をご提出下さい。
資料と交換になります

会場

なみきホール（なみきスクエア内）
福岡県福岡市東区千早４丁目 21-45

博多から千早駅まで　約 11 分（JR）
福岡空港から千早駅まで　約 23 分（地下鉄、JR）

参加申込票

第９回子どもとメディア全国フォーラム
スマホ社会と子どもの育ち

FAX 092-403-6262

締め切り　2018年1月10日（水）
定員になり次第、締め切ります。

フォーラム専用メール　**forum-9@komedia.main.jp**

フリガナ	所属（団体・学校名など）
氏名	
「参加受付票」送付先住所　〒　　－	都道府県
TEL：	FAX：
E-mail：	
第９回子どもとメディア全国フォーラム「スマホ社会と子どもの育ち」 参加費　4,000 円（2日間通し）×（　　）名分＝（　　）円	
備考欄：複数人数分お申し込みの場合は全員分の氏名（フリガナ）を明記してください	

お問い合わせ
NPO法人 子どもとメディア
http://komedia.main.jp
TEL 092-724-6323
〒810-0023 福岡市中央区警固 1-13-15-404
e-mail k-media@dolphin.ocn.ne.jp

NPO法人 子どもとメディア
テレビ・ビデオ・ゲーム・ケータイ・スマホ・パソコン、インターネットの普及により、子どもをめぐるメディア環境は激変しています。私たちは、メディアの洪水に流されることなく、子どもたちがメディア環境に主体的に向き合う力を育み、子どもとメディアの“新しい関係”を創り出すことをめざして、調査研究に取り組み、社会的提言をおこなうことをめざしています。

第９回子どもとメディア全国フォーラム

スマホ社会と子どもの育ち

2018年（平成30年）

1月27日 土　13:00開場　13:30〜17:15
トークセッション 1

28日 日　9:30開場　10:00〜16:15
特別講演・トークセッション 2 3

定員　650名

会場　なみきホール（なみきスクエア内）
福岡市東区千早 4丁目21-45
※なみきスクエアへの問合せはご遠慮ください

参加費　4,000円（2日間通し）
（資料代含む）

ゴリラ研究者が見たスマホ社会

特別講演
京都大学総長
山極壽一

主催　NPO 法人 子どもとメディア
共催　公益社団法人 日本小児科医会、福岡市教育委員会
後援　公益社団法人日本医師会、福岡県、福岡県 PTA 連合会、福岡市 PTA 協議会、北九州市 PTA 協議会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、福岡県私学協会、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK 福岡放送局

スマホ社会と子どもの育ち

各分野の第一人者から学ぶ

第９回「子どもとメディア全国フォーラム」開催にあたって

スマホやタブレットの急激な普及は、現代社会にこれまでになかった様々な現象をもたらし始めています。SNSで発信されスマホやタブレットで受信、再送信された数多くのフェイクニュース（ウソのニュース）が多くの人々の投票行動を大きく左右してしまったアメリカ大統領選挙はその典型でしょう。

では、スマホの爆発的広がりは生物としての人間の育ちにどんな影響を及ぼし始めているのでしょうか。

子どもたちは、発達の初期段階の乳幼児期から、青年期まで膨大な時間をスマホやタブレット接触に費やすようになっています。その結果、子どもたちの心やからだの育ちにもこれまで見られなかった異変が現れています。

今回のフォーラムでは、幅広い分野の専門家の方々と共にスマホ社会における子どもたちの育ちの歪みや遅れの実相を明らかにできれば、と考えています。

NPO 法人子どもとメディア 代表理事　清川 輝基

日本小児科医会は、２００４年２月に「子どもとメディア問題に対する提言」を公表して以後、研修会、ポスターやリーフレットなどで啓発を継続し、産婦人科、歯科、耳鼻科や眼科など他科との連携も進めてまいりました。昨年１月からは大人向けに「遊びは子どもの主食です」、児童・生徒向けに「スマホの時間、あなたは何を失うか？」というポスターを作成し、新たな啓発活動を開始しています。

今回の全国フォーラムでは、多岐にわたる専門分野からの講師の講演を聞き、多くの情報を共有・交換することになるでしょう。子どもとメディアの問題を考えるにとどまることなく、子どもたちの健やかな育ちをどのように保障していけば良いのか、基本に立ち戻る素晴らしい機会になることを期待しています。

公益社団法人　日本小児科医会会長　松平 隆光

27日 土　なみきホール（なみきスクエア内）

開会式・挨拶・基調報告　13:30〜14:00

トークセッション 1　14:15〜17:15

スマホ社会と子どもの育ち　コーディネーター：清川 輝基（子どもとメディア代表理事）・内海 裕美（日本小児科医会常任理事）

身体

野井 真吾（こどものからだと心連絡会議議長、日本体育大学体育学部健康学科教授）

〜子どもの「からだと心」のいま〜

「すぐ “疲れた” という」「背中ぐにゃ」「保育・授業中、じっとしていない」「朝起きられない」「夜眠れない」等々…。子どもの “からだと心” が「ちょっと気になる」といわれて随分長い年月が経過してしまいました。

「子どものからだと心・連絡会議」では、これらの問題の実態を明らかにして、それを解決するための議論を展開してきました。当日は、その一端を紹介できればと思います。

脳

瀧 靖之（東北大学加齢医学研究所教授・脳科学）

〜大規模脳画像データベースから見る 小児の脳発達と生活習慣、メディアの影響〜

子ども達の脳は、生後ダイナミックに発達することが分かってきています。また、発達に種々の生活習慣が影響することも明らかになっています。東北大学では、多数の幅広い年齢層の小児脳画像や生活習慣のデータが集積されており、脳発達と生活習慣との相関などを多数明らかにしてきました。今回の講演では、どのような生活習慣が脳発達に影響するのか、メディアは脳発達にどのような影響を与える可能性があるかを明らかにしていきます。

目

富田 香（平和眼科院長・杏林大講師・小児眼科学）

〜スマホ社会と子どもの目の発達〜

子どもの視力は生まれてから発達していきます。生まれたての赤ちゃんは明るい暗いがわかる程度ですが、急速に視力は発達し、2 歳で 0.5 前後、5 歳で約 80% のお子さんが 1.0 に達していきます。この視力の発達時期に、眼球運動や調節（ピント合わせ）も体をしっかり動かすことで一緒に発達していきます。体を動かす「外遊び」は目の機能の発達にとっても、とても大切です。

懇親会　18:30〜20:30

事前申し込みが必要です

28日 日　なみきホール（なみきスクエア内）

特別講演　10:00〜11:30

ゴリラ研究者がみたスマホ社会

山極 壽一　京都大学総長（人類学・霊長類学教授）

座長　清川 輝基（NPO 子どもとメディア）
神川 晃（日本小児科医会副会長）

超スマート社会を迎え、現代の情報環境は急速に変わりつつある。しかし、人間の身体、とりわけ子どもの成長はそれほど柔軟に変われるものではない。そこには700万年に及ぶ人類の進化の歴史が刻まれているからだ。それを人類に近いゴリラなどの類人猿と比べてみると、人間の子どもの不思議な特徴が浮かび上がってくる。

重要なのは、赤ん坊が生後1年間で脳を2倍にし、身体より脳を優先的に成長させていくことである。しかし、身体の成長が遅れるのに離乳は早く、そのためまだ乳歯なのに固形物を食べて育つ長い離乳期がある。

そしてこの時期、母親から離れて多様な人々と接することになる。ICT 社会はこの時期の子どもたちに何を提供するのかが、今後の大きな課題である。

トークセッション 2　12:15〜14:00

身体発達とスマホ社会　コーディネーター：佐藤 和夫（子どもとメディア代表理事）・渡辺 正博（日本小児科医会 子どもとメディア委員）

身体

前橋 明（早稲田大学教授・人間科学学術院・健康福祉科学）

「食べて、動いて、よく寝よう！」運動のススメ

スマホ社会・夜型社会の中で育つ子どもたちの生活習慣からみた心身の問題と対策

近年、子どもたちの余暇時間の費やし方をみると、TV・ビデオ、スマートフォン、ゲーム機器を利用したあそびが多くなって、スクリーン（平面画面）や一点を凝視するため、活動環境の奥行や位置関係、距離感を認知する力が未熟で、空間認知能力や安全能力が思うように育っていかなくなりました（スクリーン世代）。講演では、生活習慣の実態分析から子どもたちが抱える健康管理上の問題の抽出と、改善方法にアプローチしてみます。

身体

帖佐 悦男（宮崎大学医学部教授整形外科リハビリテーション科 附属病院副病院長）

子どもの運動器が危ない！〜メディアの影響と ロコモ予防〜

児童・生徒の健康に関する問題が多様化・深刻化し、体の二極化による成長期の運動器・スポーツ傷害（外傷・障害）がその一つです。運動過多による「スポーツ傷害」とメディアの影響が大きい運動不足による「運動器の機能不全・低下」があります。基本的な運動能力が低下しており、大人になっても運動不足になりやすいといえます。両者とも、ロコモティブシンドロームへつながるので、子どもの頃からその予防が必要と考えます。

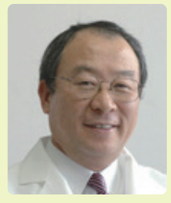
トークセッション 3　14:15〜16:00

メディア漬けがもたらすもの　コーディネーター：山田 眞理子（子どもとメディア代表理事）・原 陽一郎（筑紫女学園大学准教授）

依存

樋口 進（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター院長・臨床精神医学）

〜スマホゲームとネット依存〜



インターネット（以下、ネット）過剰使用とそれに伴う様々な健康・社会問題をネット依存と呼ぶと、その中核的状態はゲーム依存である。私どもは WHO と共同して、「ゲーム障害」の概念化・疾病化に取り組んできた。ゲーム機器ではスマートフォンの割合が着実に増えている。当日は、このゲーム障害を中心にして、ネット依存の実態、診断、治療についてその概要をお話させていただく。

睡眠

神山 潤（東京ベイ浦安市川医療センターＣＥＯ・睡眠医療）

〜メディア使用と眠り〜

小児のメディア使用と睡眠に関する研究から、スクリーンタイム増が睡眠時間減をもたらし、逆に睡眠時間増がスクリーンタイム減をもたらすこと、メディア機器が寝室にあることで眠りに悪影響が及ぶこと、さらに暴力的な内容が睡眠に悪影響を及ぼすことが指摘されている。メディアの適切な使用について、社会的な啓発を日常的に継続させることの重要性を強調したい。